

IIJ、シンガポールからインターネット中継実施 (終了しました)

1997年9月3日

9月17日、国際シンポジウム「アジアの情報通信革命」がシンガポールにて開催されます。IIJは、このシンポジウムの模様をシンガポールからインターネット中継いたします。

国際間をまたがるインターネット中継を実現するには、「バックボーン回線の太さ」「技術力」「運用能力」において、かなり高度なレベルが要求されます。今回の中継はIIJをはじめとするIIJグループ各社の総合的な力によって実現される、画期的な国際プロジェクトとなります。

まず今回のシンガポールと東京を接続するバックボーン回線は、アジアのインターネット用高速ネットワーク網、「A-Bone」が使われます。A-Boneは高速・大容量回線でアジア各国を直接接続している為、大容量データであっても、より早く、より確実な伝送が可能となります。このA-Boneは日本でIIJと100メガで接続され、日本国内のデータ配信はIIJの高速バックボーン網が使用されます。

インターネット国際中継作業は、IIJメディアコミュニケーションズが、これまでの豊富な中継実績を活かして実施します。

今回の技術的な注目点としては、通常の「ユニキャスト」通信とともに「マルチキャスト」という技術も利用される点です(注1)。IIJではこのマルチキャスト技術を応用したサービスを開発中であり、現在個人向けダイアルアップIPサービス「IIJ4U」のユーザを対象に、試験サービスを提供しています。

(注)マルチキャストとは

これまでの「ユニキャスト」通信では、100人のユーザに同じ中継内容を送信しようとした場合、サーバは同一内容のデータを100人のユーザに対し送信するので、結果として同一内容のデータが100回流れることとなります。しかしながら「マルチキャスト」の場合、データがネットワークの配置に合わせて、ネットワーク上で枝分かれを行なうので、100人のユーザに対する送信でも、データ送付は1度で済んでしまいます。これによりサーバの負荷は減少し、またネットワークの帯域を効率的に利用することが可能になるため、マルチキャスト通信は、インターネット上での大容量デ

一タを送付するための技術として、今、最も注目を集めている技術の1つです。

以上
